

令和3年度第29回石西礁湖自然再生協議会議事概要

日時：2022年2月25日（月）12:30～15:30

場所：オンライン（webex）

■出席者

個人16、団体・法人13（15名）、地方公共団体2（2名）、行政8（13名） 計45名※

※：個人委員と団体・法人委員の重複者数を差し引いた人数

■議事次第

1. 開会

2. 話題提供

（1）海から見る、沖縄の未来 -気候変動はもう起こりつつある-

3. 報告

（1）第5回部会、WGの開催報告

（2）環境省事業の実施状況について

（3）モニタリングサイト1000サンゴ礁調査速報

（4）石西礁湖の「現況把握マップ」について

（5）石西礁湖ポータルウェブサイトのリニューアルオープン

（6）サンゴ礁生態系保全行動計画2022-2030について

4. 取組発表

（1）モデル開発および河川水・地下水の定期モニタリングについて

5. その他

6. 閉会

1. 開会

2. 話題提供

(1) 海から見る、沖縄の未来-気候変動はもう起こりつつある-

- ・ 人類の影響による気候システムの温暖化は確実に進行している
- ・ 今後数十年の間に二酸化炭素や温室効果ガスの排出が大幅に減少しないと気温の上昇を抑えられない
- ・ 海洋貯熱量が増加している
- ・ 海水面は数 100 年から数 1000 年にわたり上昇する
- ・ 観光資源としての地域経済への影響が懸念される
- ・ 植物の光合成の力で地球温暖化緩和につながるかもしれない

3. 報告

(1) 第 5 回部会、WG の開催報告

◎普及啓発・適正利用部会

○ポータルウェブサイトの改修案へのご意見について

- ・ 今年度中に修正を行い、公開する。
- ・ 色々な人が興味を持つように親しみやすいデザインやレイアウトで見やすいサイトを作成する。
- ・ ヘッダーのイラストが何のイラストなのか分かりにくいため表現を検討する。
- ・ 公開マップのポイントの現在・過去の写真やサンゴの回復状況が分かる資料を「活動状況」に掲載する。
- ・ これまでの体制年表の表現方法を検討する。
- ・ 様々な媒体で閲覧、アクセスしやすくなるよう検討する。
- ・ ワーキンググループの位置付けについての表現方法を検討する。
- ・ 著作権のルールについて記載方法を検討する。
- ・ 配色や説明文の長さ、内容についてはこのまま進める。

○石西礁湖自然再生全体構想行動計画 2019-2023 概要版について

- ・ 概要版（日本語版、英語版、こども版）を作成し、主に石西礁湖ポータルウェブサイトにおいて公開する。
- ・ パンフレット「豊かなサンゴの海を守るために」を見ながら取り組めるワークシートのよな形の概要版を作成する。
- ・ 概要版の公開はオンラインで行う。

○「適正利用」について考えてみる

グループディスカッションにより「適正利用」について議論を行い、何が適正なのか、何が必要なのか、考えを共有した

- ・基準やガイドラインを設定し、それに基づき協議する必要がある。
 - ・エリアごとで様々な団体が様々な活動をしているため「適正利用」についての考え方の把握は難しい。
 - ・協議会で基準を考える必要がある。
- その他
- ・ワークショップとサンゴ学習のワーキンググループを開催した。

◎学術調査部会

- 作業チームの進捗報告
- ・蓄積型栄養塩、水文の調査結果より、水文モデルの作成に取り組む。
 - ・河川水や地下水の流れを組み込んだモデルを開発する。
- 石西礁湖の現況等を表すマップについて
- ・引き続き改良する。

◎海域陸域対策部会

- オニヒトデの確認状況について
- ・22 個体のオニヒトデを駆除した。
 - ・オニヒトデの常時監視を行っている。
- 「守る」について考えてみる
- グループディスカッションにより「守る」についてということと、海域陸域対策部会が今後どのような取り組みをしていくべきなのか、議論を行った。
- ・様々な業種の人たちと連携しながら基準を作り、対策に繋げる。
 - ・モニタリング調査を行い現状の把握をする。
 - ・調査の結果から指標や目標を作成する。
 - ・個人的な取り組みを行い、フレンドシップへの登録などでその取り組みを普及させる。
 - ・対面でのディスカッションであれば、より議論が発展したと考えられる。

◎八重山うみしまフレンドシップワーキング

- ・サンゴ礁保全に関わる人々の輪を広げることを目標にフレンドシップへの参加登録をしよう。
- ・資金はファンドレイジングで募る予定。
- ・地域産業に向けたガイドラインの作成を検討している。
- ・ワーキングを来年度 4 月に開始する予定である。

(2) 環境省事業の実施状況について

◎オニヒトデ監視駆除

- ・オニヒトデが少し増えている。
- ・引き続き注視する。

◎普及啓発活動

- ・小中学校を対象に環境学習機会の提供、自然体験プログラムを実施した。

◎部会長の任期

- ・任期を揃えるために、令和4年7月の第30回協議会にて時期部会長、副部会長を決定する。

◎行動計画概要版

- ・次年度の完成を目指して、引き続き検討する。

◎群集モニタリング調査

- ・6月末から9月末にかけて30℃に近い水温状態は続いたが、30℃を超えるような日は続かなかった。
- ・被度、定着量は2016年から比べて増加傾向である。
- ・白化率は増加した。
- ・潮通しの良い地点では白化率が低かった。
- ・被度は地点間で差がみられた。
- ・定着量の回復に時間を要している。
- ・引き続きモニタリング調査を行う。

◎石西礁湖サンゴ群集修復事業

令和3年度4月から以下の3つの試験を実施している。

1. 幼生供給拠点整備試験
2. 攪乱要因対策試験
3. 藻類除去試験

【検討事項】

◎石西礁湖サンゴ群集修復事業

- ・幼生供給拠点整備試験は、他の種を用いて試験を実施する予定である。
- ・攪乱要因対策試験は、サンゴの生育に適切な場所を広域に探す調査をする予定である。
- ・藻類除去試験は、今年度の試験結果を踏まえて、来年度の試験について検討している。

(3) モニタリングサイト 1000 サンゴ礁調査速報

- ・石垣島のサンゴの被度は 2016 年の大規模白化から回復しつつある。
- ・石垣島周辺でサンゴの被度が減少するような攪乱はなかった。
- ・石西礁湖のサンゴの被度は現状維持、西表はやや増加傾向にある。
- ・石西礁湖と西表では白化現象が発生しているが死亡率は低いため攪乱の影響は軽微だった。
- ・結果の取りまとめはモニタリングサイト 1000 のウェブサイトに掲載する。

(4) 石西礁湖の「現況把握マップ」について

- ◎「石西礁湖現況把握マップ」
 - ・ポータルサイトで公開する。
- ◎「サンゴ礁の健全度マップ」
 - ・引き続きより良い表現方法を検討する。

(5) 石西礁湖ポータルウェブサイトのリニューアルオープン

- ・ポータルウェブサイトの微修正後、リニューアルオープンする。
- ・次年度に持ち越す修正点がある。
- ・引き続き改良する。

【検討事項】

- ・SDGs に関連したページや、石西礁湖の過去の様子を記録した写真掲載ページを追加する。

(6) サンゴ礁生態系保全行動計画 2022-2030 について

- ・パブリックコメントを募集している。
- ・検討会を開催し、行動計画の策定を行った。
- ・計画期間を 9 年に変更した。
- ・定期的に評価見直しを行い、2030 年度に終了時評価を実施する予定である。

4. 取組発表

(1) モデル開発および河川水・地下水の定期モニタリングについて

【今後の方針】

- ・地下水流動モデルと石西礁湖の水文モデルを組み合わせて、サンゴ礁周辺の環境の将来予測を行う。
- ・高度なモデル開発のために、古井戸や河川水、地下水のモニタリング調査を行う。

【検討事項】

- ・古井戸の情報や、古井戸や河川水、地下水のモニタリング調査への協力者を募集中。
- ・協力者同士でデータを共有する体制作りが必要である。

5. その他

◎今後のスケジュール

【今後の方針】

- ・来年度は例年通り、1年に2サイクルで作業チーム、3部会、協議会を開催する。
- ・自然再生協議会の全国会議の開催を計画している。
- ・第30回の協議会では部会長副部会長の選出がある。

【検討事項】

- ・特になし

6. 閉会

以上